

「いなみ野ため池ミュージアム—10年の歩み—」発刊に寄せて



兵庫県知事 井戸敏三

「いなみ野ため池ミュージアム」の取り組みがスタートから10年を迎えました。兵庫には約4万3千箇所ものため池があり、その数は全国一です。なかでも東播磨地域には、県下最大の貯水面積を誇る「加古大池」や県下最古の「天満大池」など兵庫を代表するため池群とそれらを結ぶ水路網が築かれ、地域の農業を支え、人々の絆や文化を育んできました。

これらため池や水路の水辺空間を守り・活かし・次代へ継承するとともに、水辺を核としたふるさとづくりを進めるのが「いなみ野ため池ミュージアム」です。2002年にプロジェクトを立ち上げて以来、県民、団体、事業者、行政など幅広い主体が連携し、地域をあげた取り組みが展開されてきました。

その活動は、ため池の維持管理や魅力発信だけにとどまりません。水源となる里山の保全、ため池の栄養分の放流による豊かな海の再生、かいぼり(池干し)による生物多様性の保全、水辺を舞台とした環境体験学習など、多彩な活動が展開されています。まさしく、張りめぐらされた「水の路」に沿って広がる地域づくりです。

昨年末、地域の皆さんの参画と協働のもと、東播磨地域ビジョンが改訂されました。そして、ビジョンのめざすべき方向性として、「豊かな水辺を守り、生かす東播磨づくり」が掲げられました。

それだけに、皆様には、これからも「いなみ野ため池ミュージアム」の取り組みを積極的に推進し、新しい東播磨づくりを先導していかれることを期待しています。

「いなみ野ため池ミュージアム運営協議会」のますますのご発展と、会員の皆様のご健勝でのご活躍を心からお祈りします。



明石市長 泉房穂

「いなみ野ため池ミュージアム—10年の歩み—」発刊おめでとうございます。明石市では107か所のため池が存在し、そのため池を地域の貴重な財産として農業関係者と地域住民が中心となって水辺空間の保全や活用を図っているところでございます。

また、本市は、瀬戸内特有の温暖な気候と豊富なえさ場があることから、漁業が盛んで「さかなのまち明石」として全国的に知られているところです。そこで、ため池の豊富な栄養分を海に届けることで豊かな海の再生を目指すという「里と海の協働プロジェクト」に農業関係者と漁業関係者がともに協働し、取り組みを進めています。

今後とも、農業関係者や地域住民、行政などがともに手を取り合いながら、人と人との交流を大切にし、そこから生まれる温かな地域づくりにつなげていきたいと考えておりますので、いなみ野ため池ミュージアムのさらなるご発展を心からお祈り申し上げます。



加古川市長 樽本庄一

いなみ野ため池ミュージアム10年を記念して、ここに「いなみ野ため池ミュージアム—10年の歩み—」が発刊されることを心からお喜び申し上げます。

加古川市には県下最大の河川である加古川をはじめ、300を超える「ため池」やそれらをつなぐ水路など貴重で豊かな水辺空間が数多く存在します。

「ため池」をはじめとした水辺空間を守ろうと、市内では地域住民が参画する数多くの「ため池協議会」が生まれ、様々な活動に取り組まれています。

平成23年9月の豪雨により、市内でも甚大な被害がもたらされたことを受け、本市は「安全安心ため池づくり」を新たなキーワードとして、「ため池」が防災上、重要な機能を担っていることを地域住民に意識啓発していきたいと考えています。

また、「安全安心ため池づくり」を進めるには、地域住民が「ため池」の存在を認識し、「ため池協議会」が中心となって、地域の絆のもとで安全体制を確立していくことが重要であり、そのことは同時に地域づくりにつながっていくものと考えます。

そして、その基礎となる取り組みがこの10年の間で着実に積み重ねられてきたと感じています。

今後は、この成果を活かし、ため池を活用した地域づくりが更に進むことを祈念いたしましてお祝いの言葉とします。



高砂市長 登幸人

「いなみ野ため池ミュージアム」10周年記念誌発行、おめでとうございます。

高砂市では29のため池があり、いなみ野ため池ミュージアム発足当時より熱心に活動しておられる「堂池ため池協議会」をはじめ、現在5協議会が活発に活動されています。ため池は昔から地域における貴重な資源として、現在に至るまで有効に活用されており、水田農業に必要な農業用水を安定的に確保するだけでなく、洪水を一時的に貯留する機能、地域の動植物の生息空間、地域住民の生活に潤いと安らぎの提供、さらには地域の子供たちの情操教育空間など、さまざまな面において重要な役割を果たしています。

これらの多面的機能をより一層推進するため、いなみ野ため池ミュージアム運営協議会の一員である本市におきましても、引き続き地域住民及びため池管理者と協働して、保全・整備を進め、地域の人々が集う親水空間としての取り組みに努めてまいりたいと思います。



稲美町長 古谷博

このたびは、「いなみ野ため池ミュージアム—10年の歩み—」発刊おめでとうございます。

稲美町は、昔から農業に必要な水の確保に苦勞した地域であり、我々の先人は、水がめとしてたくさんのため池を作ってまいりました。現在でもため池の水面積が町面積の10%以上あり、稲美町と言えば「ため池の町」というイメージがございます。

当町は、これまでため池の利活用整備として、田園空間整備事業等により、25ヶ所のため池の遊歩道整備や親水施設の整備を行ってまいりました。整備されたため池は、日々のウォーキングはもとより、それぞれのため池協議会やまちづくりの会が主催するウォーキングイベントやクリーンキャンペーン、植栽活動など、地域交流や健康増進の拠点として活用されています。

今後も、ため池を活用した地域づくりを、東播磨地域全体で推進されますことをご期待申し上げます。



播磨町長 清水ひろ子

「いなみ野ため池ミュージアム」10周年おめでとうございます。
東播磨地域の特色である「ため池群」を活かしての地域づくりは、身近にありながらその価値が見過ごされていた貴重な資源を、改めて見直す機会にもなったと思います。

従来、農業者の水利施設として認識されてきた「ため池」ですが、豊かな自然資産であり、貴重な文化遺産でもあります。さらに地域活動の場としての機能を持つこととなり、その役割はさらに広がっていくものと期待されます。

播磨町にも12のため池がありますが、多くが住宅地に近接しており、「守り、活かし、次代へ継承する」取り組みは、地域づくりの有効な手段のひとつであると考えます。住民のみなさまの参画と協働のもと、この取り組みがさらに拡大され、継続されていくことを願っています。